

カラフルな列車が贈る、心躍る新たなる旅立ち

# JR日高線・室蘭線 H100形 ラッピング車両 お披露目会

日高線をコンセプトにした車両は、旧国鉄一般気動車標準色をベースに、日高胆振の特色である「アイヌ文化」「馬産地」と、むかわ町の「カムイサウルス・ジャボニクス（通称：むかわ竜）」が鮮やかな色彩で表現されており、室蘭線のラッピング車両と共に地元の方々や観光客から大きな注目を集めました。



駅長の「出発」の号令とともに発車



カムイサウルスと馬のイラストの中には「ヒダカセン」のカタカナが隠れています



道産木材を使用したテーブルと特注シート



1市4町の首長による出発式



新車両によるプレ運転の様子

イベントでは、抽選に当選した一般の参加者と、苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町の各首長が日高線ラッピング車両に乗車し、苫小牧駅～鷗川駅をプレ運行しました。乗車された方々は貴重な体験として新車両からの景色と乗り心地を楽しんでいました。

プレ運行後のお披露目会では苫小牧駅のホームで2車両を一般公開し、約200人の方々が来場しました。今後もこのような取り組みが積極的に推進され、日高線・室蘭線をはじめとした、地域の公共交通の更なる利用につながる事が期待されます。



お披露目会

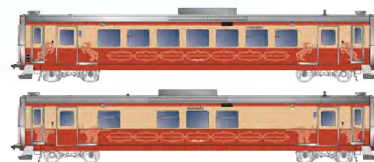


むかわん、とまろっポツ、あままるくんも出演しました



JR日高線・室蘭線をコンセプトにしたラッピング車両が導入されることに合わせて、2月12日（月・祝）に苫小牧駅で車両のお披露目イベントが開催されました。このイベントは、JR日高線・室蘭線の沿線自治体とJR北海道の協力のもとに行われ、それぞれの地域の特色をコンセプトにしたラッピング車両が披露されました。

## 日高線



旧国鉄一般気動車標準色をベースに、日高胆振の「アイヌ文化」「馬産地」としての魅力を詰め込み、国内最大級の全身骨格化石であるカムイサウルス・ジャボニクス（通称：むかわ竜）をデザイン。

## 室蘭線



空知で産出された石炭を50両連ねて室蘭港へ運んだといわれる黒色の石炭車「セキ3000」をモチーフに、室蘭線沿線の歴史やシンボルをシンプルな線画で表現。

※本ラッピング車両は、2月中旬から室蘭線の長万部～苫小牧間、室蘭～東室蘭間を定期列車として運行予定です。設備の都合上、日高線における定期運行は予定されていません。